

ま え が き

本報告書は、鋼道路橋の溶接継手部に対する超音波自動探傷検査の適用性に関する検討を行い、鋼道路橋溶接部の超音波自動探傷検査要領を提案することを目的として、平成10年度～平成11年度の予定で、建設省土木研究所（現 国土交通省国土技術政策総合研究所）、東京工業大学、日本道路公団、(社)日本橋梁建設協会、(社)鋼材倶楽部（現 (社)日本鉄鋼連盟）、(社)非破壊検査振興協会(平成11年度より参加、現 (社)日本非破壊検査工業会)の六者で行った共同研究の結果をとりまとめたものである。

本研究は、主として超音波探傷装置の特性評価のために多数の厚板供試体を用いて行った2回の回送試験方式による超音波自動探傷検査と、結果評価のための全供試体に対する破壊試験からなり、その結果のとりまとめには、膨大なデータの整理ならびに多角的な評価、検討のための時間を要した。

平成14年 3月